

講演に同時通訳も導入しております。世界的にご活躍の先生方の講演を直接拝聴できる貴重な機会です。是非、多くの先生方に会場までお運びいただきたいと存じます。

このたびの学術集会では、シンポジウム、一般演題、あわせて1,500題を超える演題が発表されます。京都国際館に新たに建築されましたニューホールは、イベントホールとともにポスター会場となります。また、グランドプリンスホテル京都にも3会場を設けます。学術セミナー（旧ランチョンセミナー）も22セミナーと充実した内容になり、多くの先生方にご参加いただけたと思います。十分なスペースが確保できたものと考えておりますが、セッションによっては座席が満席となることも予想されます。そこで、初めての試みとはなりますが、Wi-Fiを活用し、ご自身のスマートフォンで他会場の発表が聴けるサービスも提供する予定です。

京都での学術集会開催は12年ぶりになります。情報交換会では、京都らしさを感じていただける内容も企画しております。勉強の合間に、京都の風情を味わいながら、意見交換していただければ幸いです。

JSPEN2020 京都でお会いできますことを楽しみにしております。

JSPEN2020 の聴きどころ

オリンピックイヤーに湧く2020年ですが、JSPEN2020も、日本臨床栄養代謝学会と改名し最初の記念すべき学術集会、きっとみなさんの思い出に残る一大イベントとなるでしょう。第35回学術集会会長の佐々木雅也先生のご挨拶で、聴きどころ満載なことは十分お感じいただけたと思いますが、佐々木先生のご協力をいただき、さらにチェックしておきたい聴きどころをご紹介します。

【理事長講演、会長講演】

これまでの栄養療法の流れを振り返り、これからの在り方について耳を傾けていただくとともに、ぜひ、みなさんひとりひとりが、今後の未来に向けた新たな展開を思い描いてください。

【海外招聘講演】

過去何度か来日されている McClave 先生が、腸内フローラ関連の講演をされます。また、ESPEN、ASPEN、PENSA の代表の先生方からご講演を賜ります。今回の学術集会でも多く取り上げられている GLIM などについて、最新の動向を聞くことができます。

【特別講演、教育講演】

サルコペニア、炎症性腸疾患、食物アレルギー、周術期栄養管理、スポーツ栄養学など、多領域の講演があります。日常気になる病態について、学びを深めるチャンスです。臨床研究や英語論文作成などについて学べるセッション、日本栄養士会会長、中村丁次先生、次回の JSPEN2021 の会長、鍋谷圭宏先生の特別講演もあります。

【シンポジウム】

がん、消化器疾患、周術期、重症患者、サルコペニア・フレイル、悪液質、神経疾患、認知症、重症心身障害児といったさまざまな病態、パスの活用、地域一体型 NST、NST の現状と未来、プレバイオティクス、プロバイオティクス、経腸栄養、PEG、静脈栄養、緩和医療、栄養教育といった幅広い分野での意見交換が行われます。講演を聴くだけでなく、勇気を出して、質問、討論に参加してください。

ワクワクしてきましたね。JSPEN2020 で、栄養療法のイノベーション、栄養学の未来をごいっしょに体感しましょう！

そして、会長の佐々木先生のご挨拶にあるように、臨床栄養を通して、社会に貢献するひとりとして、歩き出しましょう。2月の京都は寒いですが、みなさんの熱い思いが詰まった会場でお会いしましょう。

広報ワーキンググループ

JSPEN [Newsletter] No.1 2020年1月1日発行

発行人 一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会（理事長 東口 高志）

編集 広報ワーキンググループ

一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会 事務局

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目17番地1号 昭美京橋第二ビル5階

TEL : 03-6263-2580 | FAX : 03-6263-2581 | E-mail : jimukyoku@jspen.or.jp